

D 141 人工排泄孔造設者の衣服の問題点について（実態調査から）

東京都補装具研究所 岩波君代

目的 人工肛門・人工膀胱の造設者が家庭及び社会生活場面において、心身ともに様々な問題に直面するだろうと想定し、実態調査を行った。ここでは主に衣生活の内容について報告する。

調査方法	方法	質問紙郵送法
	対象者	昭和62年度東京都オストメイト講習会受講者・東京互療会会員
	発送数	約970人
	実施時期	1987年12月

結果 腹部にパウチを付けていることによる衣服着装の不都合な点及び工夫、さらにそれらに伴うモレ、臭いの悩みおよび工夫をしている内容が明らかになった。

ことに外出時には、失敗を恐れて肌着や装具などの着替えを多く持ち歩いたり、なるべく外出を控えたりすると言う人も少なくなかった。

なお本研究は、1988年老人・障害者の排泄障害問題研究会で行ったオストメイト排泄ケアに関する調査研究（菊池恵美子、松井和子、岩波君代、東城康裕）をもとに分析したものです。